

介護従事者にとって防災とは

八尾市役所 実効性のある避難の確保に関する講演会
令和5年1月31日

兵庫県立大学大学院 減災復興政策研究科
教授 青田 良介

近年の主な自然災害（台風・豪雨）

【令和4年防災白書：我が国における最近の主な自然災害から】

	地震	台風・豪雨	火山噴火	大雪	竜巻・突風	その他	計
H24年度（件数）	0	3	0	1	1	0	5
H25年度（件数）	1	4	0	1	1	0	7
H26年度（件数）	1	4	1	1	0	0	7
H27年度（件数）	0	4	3	0	0	0	7
H28年度（件数）	2	4	0	0	0	0	5
H29年度（件数）	0	4	1	1	0	0	6
H30年度（件数）	3	3	1	0	0	1	8
R元年度（件数）	1	7	0	0	0	0	8
R2年度（件数）	1	3	0	2	0	0	6
R3年度（件数）	2	2	0	0	0	0	4



近年の地震災害

(除：阪神・淡路大震災、東日本大震災)

- 1) 鳥取県西部地震 (2000年6月、M7.3)
- 2) 芸予地震 (2001年3月、M6.7)
- 3) 宮城県沖地震 (2003年5月、M7.1)
- 4) 十勝沖地震 (2003年9月、M8.0)
- 5) 新潟県中越地震 (2004年10月、M6.8)
- 6) 福岡県西方沖地震 (2005年3月、M7.0)
- 7) 能登半島地震 (2007年4月、M6.9)
- 8) 岩手・宮城内陸地震 (2008年6月、M7.2)
- 9) 熊本地震 (2016年4月、M7.3)
- 10) 鳥取県中部地震 (2016年10月、M6.6)
- 11) 大阪北部地震 (2018年6月、M6.1)
- 12) 北海道胆振東部地震 (2018年9月、M7)
- 13) 福島県沖地震 (2021年2月、M7.3)
- 14) 福島県沖地震 (2022年4月、M7.4)



〔 熊本地震 〕



〔 北海道胆振東部地震 〕



〔 大阪北部地震 〕



〔 福島県沖地震 〕

減災を考える上での重要なポイント

1. 「防災」よりは「減災」

- 災害を完全に防ぐ（被害ゼロ）は難しい。
- 災害を防ぐことはできなくても、**被害を軽減**することはできる。

2. ハザード（Hazard、危険要因）と災害（Disaster）

- 地震、津波、台風、降雪、竜巻←災害を及ぶ恐れのある自然現象（ハザード）
- 災害：自然現象（ハザード）によって引き起こされる被害
- 被害を及ばさない限り、災害にはならない（毎年数多くの台風や地震に見舞われるが、全てが災害ではない。）。

減災を考える上での重要なポイント

3. 脆弱性（弱い・脆い）

- 脆弱性が大きいほど、被害が大きくなる。小さくなれば、被害を軽減できる。
 - 高齢者、障がい者、乳幼児、妊婦、子ども…
 - 壊れやすい住宅、インフラ…
- （例）東日本大震災では、若い人たちは高台に逃れたが、高齢者はたどりつけなかった（犠牲者の約6割が高齢者）。
- 高齢者がもっと早めに避難する、あるいは避難を助けていれば、死者数が減っていたかもしれない。

4. 曝露

- 人口、インフラ、住宅、有形資産等リスクに触れる部分
- 都市部や沿岸部等人口の多いところほど、災害に見舞われやすい。

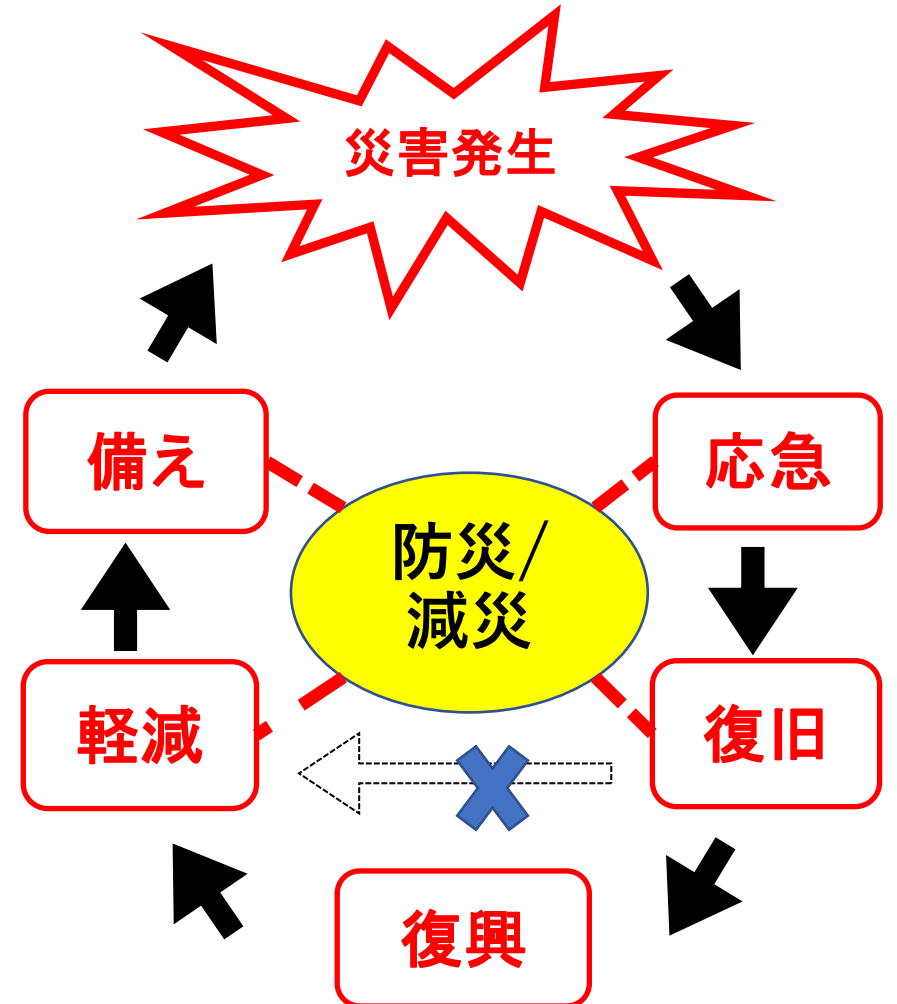


減災を考える上での重要なポイント

- ⑤ 継続性（＝無理に進めても、続かなければ効果がない。）
- 災害直後の対応だけでなく、**災害前の備え**、**災害後の復興**を着実に進める。
 - 長続きするためには、**普段の生活**を疎かにしない（**防災を隠し味**に社会を発展させる）。
 - 最初から「すべきこと」ではなく、身の丈に合った「できること」を着実に増やしていく。

「すべきこと」＝
「できること」＋「できないこと」

【災害サイクル】



福祉に着目する防災

1. 残された被災者を置き去りにしない（＝阪神・淡路大震災からの教訓）
2. 脆弱な方々を救済できれば、被害の減少につながる。
3. 高齢者、障がい者等の要配慮者への支援を考える。
 - 要配慮者：高齢者、障がい者、乳幼児その他の特に配慮を要する方
 - 避難行動要支援者：災害が発生し、又は恐れがある場合に自ら避難することが困難な方

要配慮者

避難行動要支援者

自施設の場所確認 (八尾市防災マップ、水害)



な時間で水かさを増します
 extremely quickly / 河川は短時間で水かさが増します / 강은 순식간에 물이 많아집니다. / O nível de água aumenta em pouco tempo. / CN: với một thời gian ngắn sông có thể làm tăng đáng kể lượng nước.

みんなの雨が降る現象が各地で
 普段は穏やかな川もいった
 ると一変します。特に中洲や
 中に変化に富んでおり、刻々
 川へ近づくと、川上の空
 が確認するようにしましょう。

外水氾濫と内水氾濫
 Mechanisms causing flooding / 洪水発生前机制 / 暴水 발생 전 기 / Mecanismos de ocorrência de inundação / Cơ chế gây ra lũ lụt

▶ **外水氾濫** Inundation by river water / 外水氾濫 / 외수 범람 / Alagamento de águas externas / Ngập lụt bởi nước sông
 堤防から水が溢れ出したり、堤防の決壊によって河川の水が氾濫すること。
 外水氾濫が発生すると、勢よく水が流れ出し、一気に水かさが増し危険です。

▶ **内水氾濫** Inundation inside a levee / 内水氾濫 / 내수 범람 / Alagamento de águas internas / Ngập lụt bên trong đê
 降った雨をスムーズに河川に排泄できずに、水路や下水道施設などから水が溢れ出すこと。内水氾濫が発生すると、低地や窪地、地下室など水位が深くなる場所があり危険です。また、内水氾濫が発生した後に、河川の氾濫による外水氾濫も予想されるため、災害情報に注意して安全な避難行動をとることが重要です。



浸水深の目安
 Guide to flood water depths / 浸水深の目安 / 침수 깊이 구분 / Referência da profundidade de imersão / Tiêu chuẩn độ sâu nước thâm nhập

※本マップの浸水深・家屋倒壊等氾濫想定区域の配色は全てこちらの配色で統一しています。

<p>5.0m以上の区域 安全な建物や避難所等へ一刻も早く避難。</p>	<p>Zones with flooding of 5.0 m or higher / 5.0m 이상 침수 / Área acima de 5.0 m / Khu vực có độ sâu 5.0m trở lên</p>	<p>河岸浸食による家屋倒壊等氾濫想定区域 家屋の基礎を支える地盤が流出し家屋が倒壊するような河岸浸食の発生が想定され、早期の立退き避難が必要な区域。</p>
<p>2.0~5.0m未満の区域 2階の軒下まで浸水する恐れ。3階以上が避難所等へ避難。</p>	<p>Zones with flooding of 2.0-5.0 m / 2.0~5.0m 침수 / Área de 2.0m até menos de 5.0m / Khu vực có độ sâu 2.0~5.0m</p>	<p>氾濫流による家屋倒壊等氾濫想定区域 木造家屋が倒壊するような堤防決壊等に伴う氾濫流の発生が想定され、早期の立退き避難が必要な区域。</p>
<p>1.0~2.0m未満の区域 1階の軒下まで浸水する恐れ。2階以上が避難所等へ避難。</p>	<p>Zones with flooding of 1.0-2.0 m / 1.0~2.0m 침수 / Área de 1.0m até menos de 2.0m / Khu vực có độ sâu 1.0~2.0m</p>	
<p>0.5~1.0m未満の区域 大人の腰程度の高さまで浸水。2階以上が避難所等へ避難。</p>	<p>Zones with flooding of 0.5-1.0 m / 0.5~1.0m 침수 / Área de 0.5m até menos de 1.0m / Khu vực có độ sâu 0.5~1.0m</p>	
<p>0.5m未満の区域 避難が遅れた場合に限り、自宅の上層階で待機。</p>	<p>Zones with flooding of 0.5 m or lower / 0.5m 이하 침수 / Área de menos de 0.5m / Khu vực có độ sâu 0.5m</p>	

このマップで色がついていない場所や浸水深の浅い場所でも、雨の降り方や堤防の決壊する場所によっては、想定される浸水深よりも深くなる場合がありますので注意してください。

区域の境界は厳密ではなく、あくまでも目安であることに留意してください。

浸水ハザード
 もし、大和川があふれば

If the Yamatogawa River is overflowing, Yamato City will be in a flood hazard.

このマップは平成28年5月12日(土)の12時間総雨量316mm(平均の大雨)に伴う洪水による浸水深の状況を想定して作成されています。

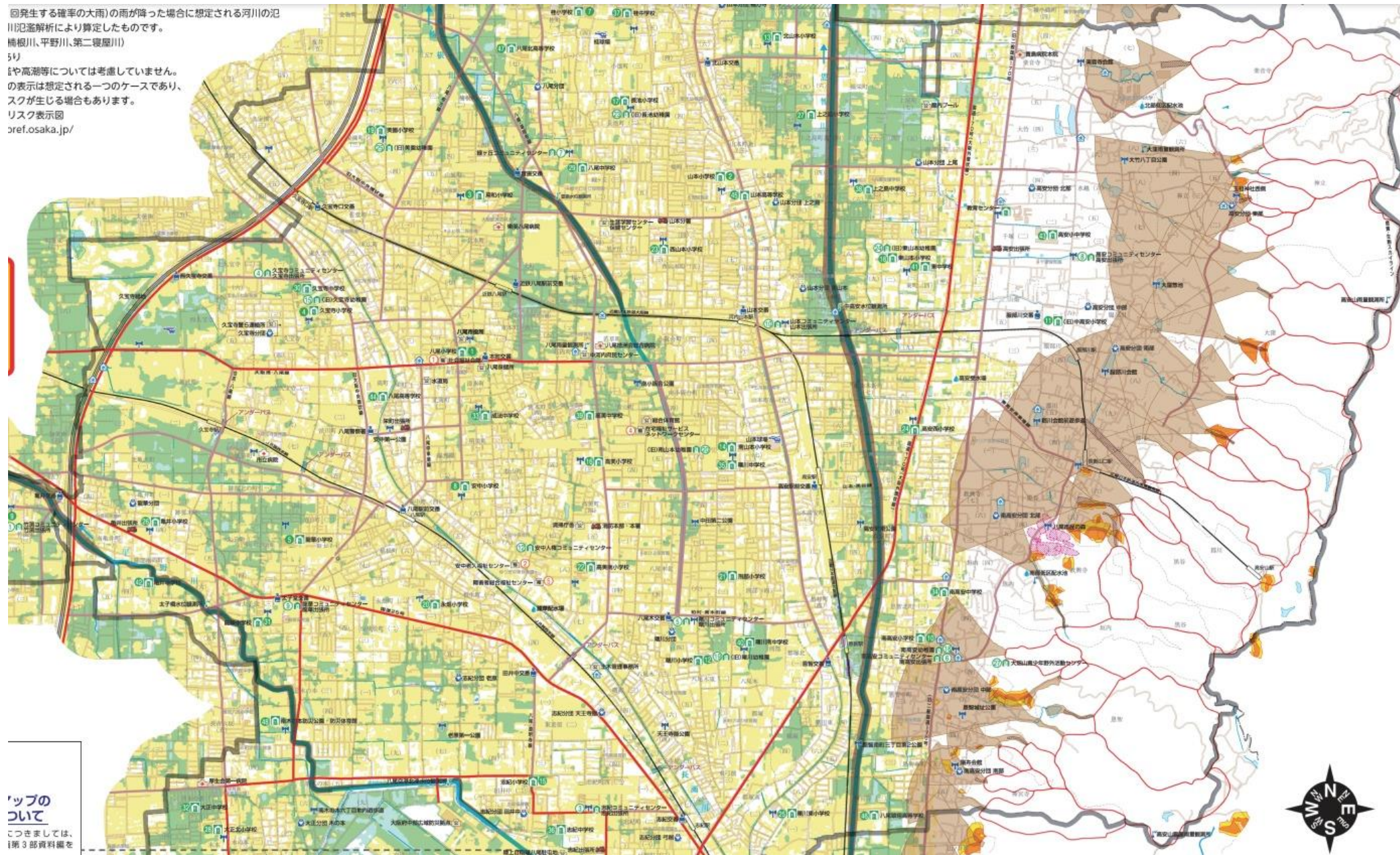
- 対象河川(大和川)
- 内水氾濫の考慮:なし
- 支川の決壊による氾濫や
- この洪水浸水想定区域(浸水が発生する場合や、なる場合があります)。

[参考]
 大和川水系大和川洪水浸水想定区域図
https://www.kkr.mlit.go.jp/disa_03.html



自施設の場所確認 (八尾市防災マップ、土砂崩れ)

回発生する確率の大雨)の雨が降った場合に想定される河川の氾
川氾濫解析により算定したものです。
橋根川、平野川、第二寝屋川)
5リ
計や高潮等については考慮していません。
の表示は想定される一つのケースであり、
スグが生じる場合もあります。
リスク表示図
ref.osaka.jp/



マップの
ついて
つぎましては、
第3部資料欄を

避難確保計画の作成

- **浸水想定区域や土砂災害警戒区域内**の要配慮者利用施設の管理者等は、避難確保計画の作成・避難訓練の実施が義務となる。
- **洪水**：「想定される水深の深さ、浸水時間」 → 「立退き避難か屋内安全確保か」
- **土砂災害**：「家屋等の倒壊」 → 「原則、立退き避難」

(八尾市ハザードマップで場所を確認)

〔 気象庁ホームページ：防災気象情報と警戒レベルとの対比について 〕

警戒レベル	住民がとるべき行動	市町村の情報	警戒等	気象庁等の情報 レベル (気象庁発表)	警戒川 洪水警報
5	命の危険 直ちに安全確保! すでに安全な避難ができず、命が危険な状況。いまいる場所よりも安全な場所へ直ちに移動等する。	緊急安全確保 (必ず発生時の対応は100%)	大雨 特別警報	災害切迫	氾濫発生情報
<警戒レベル4までに必ず避難!>					
4	危険な場所から 全員避難 ・台風などにより悪化が予想される場合は、避難が収束する前に避難を完了しておく。	避難指示	土砂災害 警戒情報	危険	氾濫危険情報
3	危険な場所から 高齢者等は避難 ・高齢者等以外の人にも必要に応じて、避難の行動を見合わせ始めたり、避難の準備をしより、自主的に避難する。	高齢者等避難	大雨警報 洪水警報	警戒	氾濫警戒情報
2	自らの 避難行動を確認 ・ハザードマップにより、自宅等の危険箇所を確認するとともに、避難経路の把握や状況を確認するなど。		大雨注意報 洪水注意報	注意	氾濫注意情報
1	災害への心構えを 高める		早期 情報 (情報伝達 の可能性)		

※ 夜間～翌日早期に大雨警報(土砂災害)に切り替える可能性が高い注意報は、高齢者等避難(警戒レベル3)と相当します。

気象庁
Japan Meteorological Agency



堤防決壊による家屋の流失(鬼怒川)



写真2 土砂災害による建物被害の例(大分県日田市令和2年7月)

〔 国交省：避難確保計画の作成・活用の手引き 〕

避難確保計画の作成

- 対応人員の配置
- 情報収集・伝達
- 避難先：「立退き避難（水平避難）」か「屋内安全確保（垂直避難）か」
- 立ち退き避難の場合は、避難経路、避難方法
- 屋内安全確保の場合は、設備、備蓄
- 訓練・研修による確認、バージョンアップ

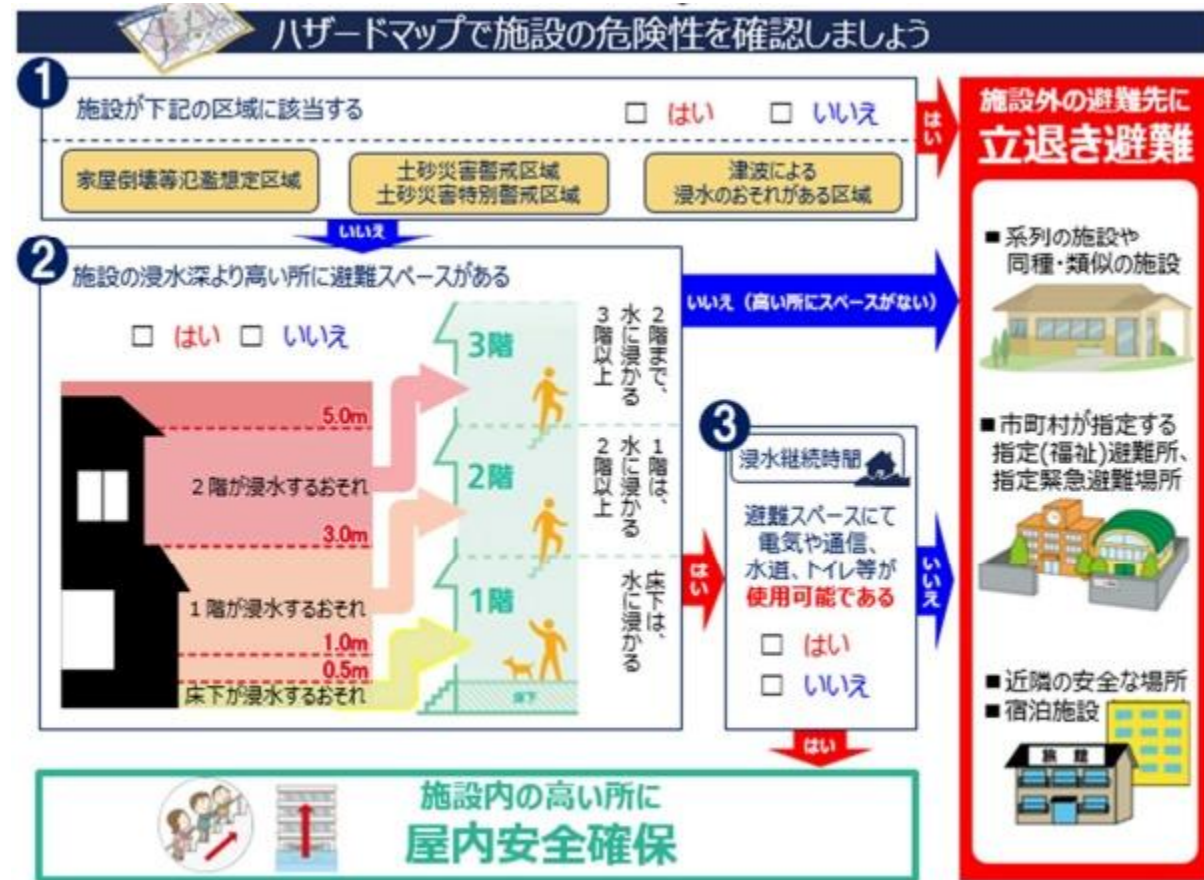


図 10 避難先選定の考え方

避難後の介護が重要なのは言うまでもありません！

BCP（事業継続計画、Business Continuity Plan）とは

1. 内閣府定義（2017）

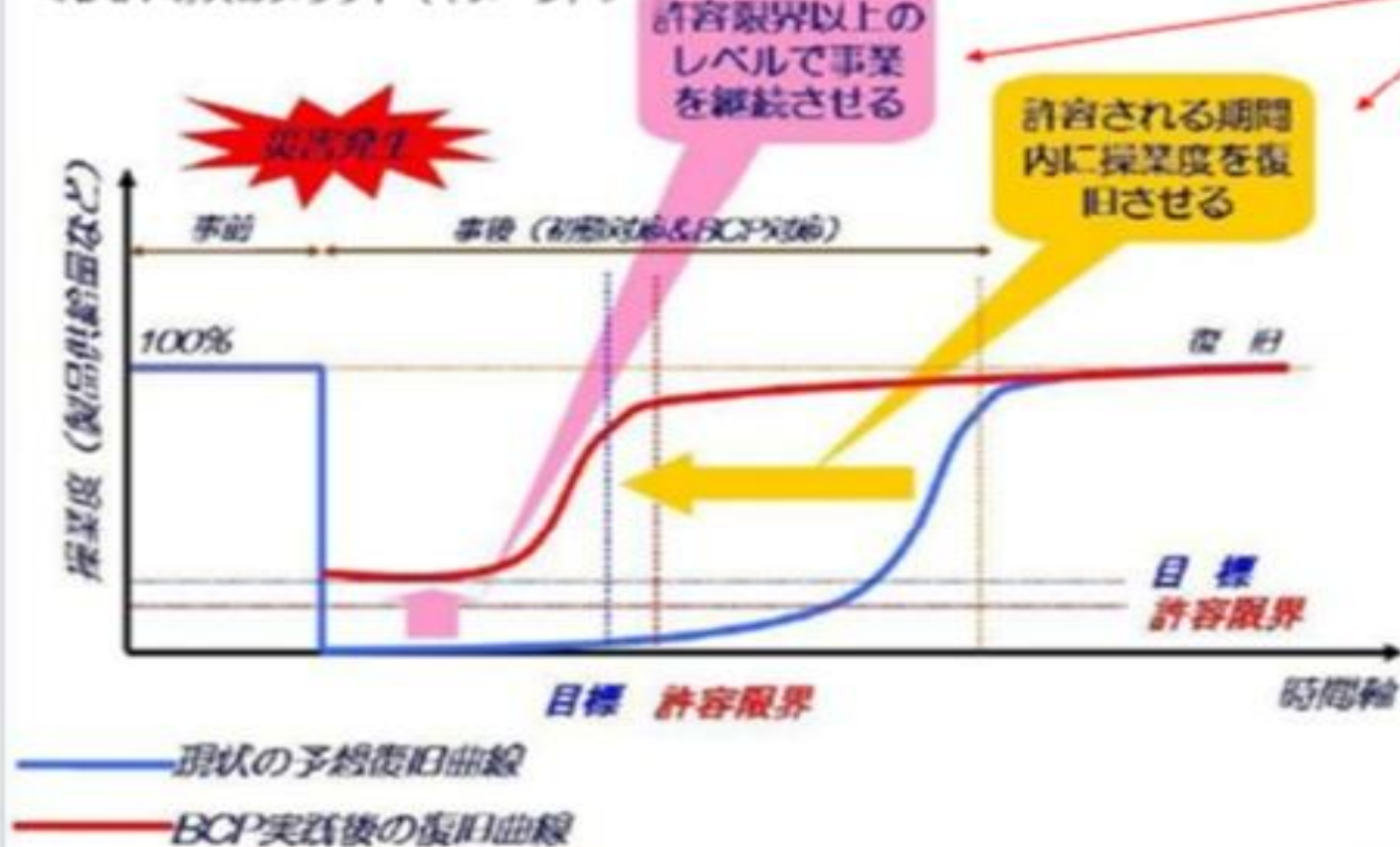
「大地震等の自然災害、感染症のまん延、テロ等の事件、大事故、サプライチェーン（供給網）の途絶、突発的な経営環境の変化など**不測の事態が発生しても、重要な事業を中断させない、または中断しても可能な限り短い期間で復旧させる**ための方針、体制、手順等を示した計画」

2. **地方自治体や企業**でもBCP策定を進めている。

3. 厚生労働省では、2021年の介護報酬改定でBCP（業務継続計画：）対策に関する項目を追加。3年の経過措置期間つきで**全介護サービス事務所**がBCP策定に向けて取り組むよう義務付け。

事故や災害等を原因とする「**操業レベル**」低下、「**操業停止期間**」長期化等の弊害を回避するために、**事前に、被害の拡大防止策や、限られた経営資源の中での事業継続のあり方を「計画書」の形で整理・検証**しておくことは、事業所運営にとって非常に有効です。
この計画書にあたるのがBCPであり、地震対策はBCPの形で整理・検証をするのが有効とされています。

<BCP導入のメリット（イメージ）>



そのために事前に整理・検証
= BCP

<主な項目>

- 被害想定
 - ・被害軽減策の整理
- 体制構築
 - ・役割分担、連絡手段確保
- 初動対応
 - ・人命安全確保
 - ・安否確認
 - ・帰宅判断
 - ・近隣（地域社会）対応
- 復旧準備対応
 - ・被害情報収集
 - ・事業インフラ復旧
 - ・災害広報
- 本格復旧対応
 - ・重要業務の選択
 - ・復旧手順の遂行

介護サービスの事業者に求められる役割と課題

(BCP基本方針、厚労省2020)

1. サービスの継続

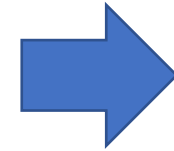
- ・ 入所者・利用者の健康・身体・生命を守る。
- ・ 特に、入所施設は「生活の場」である。
- ・ 被災時に最低限のサービスを提供する。

2. 利用者の安全確保

3. 職員の安全確保

- ・ 職員の過重労働を防ぐ。
- ・ メンタルヘルスを行う。

4. 地域への貢献



介護事業者にとって、防災対策は容易いものか？

- ・ 多忙な介護業務、少ない人材。
- ・ サービス利用者（高齢者、障がい者等）は脆弱度が高い。
- ・ 防災（災害）に対する理解、知識、経験は決して高くない。



外部の意見：「～すべき！」

内部の意見：「～できる？」

BCPが“絵に描いた餅”
にならないか？

BCP対応事例（支援先）：(株)あぷり社（八尾市内）



- 総人数：約180名（正社員約60名）
- 事務職員（3名）、ケアマネジャー（4名）、相談員（5名）、介護職員（約100名）、看護職員（10名）、クリーン職員（約20名）、キッチン職員（約30名）、リハビリ職員（4名）、医療関係職員（2名）

平常時の(株)あぶり社のマネジメント

1. 介護事業のイメージを変える改革をしたい。
2. 「**高齢者の未来にとびっきりの笑顔と感動を添える**」を企業理念に。
3. 職員が働いてわくわくする、**自分事と捉え主体的に考え行動する職場作り**。仕事への意欲が高まると効果的にケアできる。
4. 仕事とは別に部を設け、常勤職員を参加させる。
 - **教育部**：新人向け、2-3年目の職員向け、外国人職員（インドネシア・ベトナム）向け等に研修を行う。
 - **広報部**：新入職員も参加。広報誌の他、インスタ・ツイッター・NOTE等SNSでも発信。

平常時の(株)あぶり社のマネジメント

- **環境部**：居心地の良い職場環境。在庫管理、システム化により、時間効率を上げる。
- **レクリエーション部**：利用者向けイベント企画。社員旅行も企画。
- **セレッソ大阪のオフィシャルパートナー**
- **接遇部**：相手の立場に立って入所者が何を求めているかを学ぶ。
- **経営方針**：社長、施設長等幹部で年1回合宿を行い決定する。

レクリエーション予定表

	午前	午後
6/27日 (月)	9:30 10:30 折紙	15:10~ 15:50 ボーリング
6/28日 (火)	9:30 10:30 脳トレーニング	15:10~ 15:50 映像鑑賞
6/29日 (水)	9:30 10:30 ぬり絵	15:10~ 15:50 風船バレー
6/30日 (木)	9:30 10:30 ラジオ体操	15:10~ 15:50 棒体操
7/1日 (金)	9:30 10:30 お習字	15:10~ 15:50 ハエ叩き
7/2日 (土)	9:30 10:30 貼り絵	15:10~ 15:50 すごろく
7/3日 (日)	9:30 10:30 映像鑑賞	15:10~ 15:50 音楽体操

仕事予定表

	午前	午後
3/0日 (日)	口腔体操	カラオケ
3/1日 (月)	11:45 口腔体操	防災訓練と音楽鑑賞
3/2日 (火)	11:45 口腔体操	防災訓練と音楽鑑賞
3/3日 (水)	11:45 口腔体操	11:00 クロスワード 15:20 三本で取っておく
3/4日 (木)	11:45 口腔体操	カラオケ
3/5日 (金)	11:45 口腔体操	防災訓練
3/6日 (土)	11:45 口腔体操	合唱



【特集】
コミュニケーションの大切さ

社内報「Flowers」創刊号の特集テーマはコミュニケーション。社内報創刊ということで、社内コミュニケーションの活性化を図る中、人と人が関わり合う中で最も大切なコミュニケーションは言葉であり、難しい部分も言っています。そこで、今回は「コミュニケーション」について取り上げたいと思います。



- Smile & Future For The Elderly -
Flowers

2022
SPRING

Vol.1



新入社員と三宅社長
(自己紹介は表4へ)

カインコハナ
解語之花
あぶりで働く
美しい人を紹介

【社長インタビュー】

言いづらいことでも、
しっかりさらけ出し、
仲間との協力関係を
築いていこう！



【特刊】「コミュニケーションの大切さ」

価値発信への期待
この度、社内報「Flowers」を創刊しました。社内報への期待、それは「価値発信」です。各施設ではさまざまな取り組みをし、成果も上がっている。いい活動もあります。しかしそれらを発信しなれば、存在も成果も認められないし、好事例も共有されません。



あぶり人材教育の要・教育部！
みんなで「共に育む」教育を
目指しています。

教育部コーナー

今回のテーマ

新入社員研修について。

ついに新入社員が入社しました！ 新入社員と教育部との関わりは「新入社員研修」。そこで、私たち教育部がどのような考えの元、新入社員にどのような研修を行ってきたかをお伝えします。

【新入社員研修の内容】

経営理念について (社長)

社会人とは・介護の仕事とは

10年後のなりたい自分

入浴介助

認知症

排泄介助

口腔ケア・食事介助

レクリエーション発表

移乗・誘導・ボディメカニクス

【特集】

『コミュニケーションの大切さ』

THE IMPORTANCE
OF
COMMUNICATION

気合だ！ / 泣いた。 / ソレトモカンタン？

私の好きな日本語！
きれい/かわいい

急に言われて「え？ え？」

好きな日本語は「きれい/かわいい」ですね。ベトナムには他人を褒めるという風習があまりなくて、日本語の、この言葉は大変気に入っています。

でも、日本語でのコミュニケーションは難しいですね。ある時、「デイサービス、来たよ」という連絡をインカムでもらいました。「分かりました」とは言ったものの、(ご利用者さんはもたら下に降りたのかな？ それともロビーにいるのかな？) と思って、一階に行くと「デイサービスをご利用のご入居者さんをお呼びしてほしい」ということでした……。よく考えたら分かるのですが、急に言われて「え？ え？」と焦ってしまいました。

あぶり八尾都塚
パン・ティ・テウさん

謎肉 ソレトモカンタン？

あぶり八尾都塚
グエン・ティ・フォンさん

あぶり八尾都塚ご入居者様
樫本 和子様

時には、時には、孫の娘の

Smile&Future
笑顔を増やして

平常時の(株)あぶり社のマネジメント

- 紙ファイルを減らし、DXなどに投資する分、稼働率を上げる。コスト意識を徹底。
- 介護情報はタブレットで全職員が共有。ベッド下に特別センサーを設置。サービスに充てる時間を精査。残業をなくす。
- 一方、職員間のコミュニケーションが大切。
- 防災力強化を職員育成の一環で捉えてはどうか (青田)



News & Topics

大和川氾濫を想定した、垂直避難の訓練

自治体との連携を促すため、3月15日に志紀で、25日には八尾太田にて、避難訓練が行われました。この訓練は、BCP (Business Continuity Plan) 事業継続計画) に基づいて行われています。

当社のBCPは、兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科・青田良介教授ご指導のもと、昨春秋に志紀で初めて避難訓練が行われました。原則的に避難場所は施設の上階、垂直避難を行います。

当社では、想定する災害は水害、大和川氾濫を想定しています。地震は予知が難しいので、避難準備もままならない部分がありますが、台風や大雨の場合は発生頻度も高く、施設立地が大和川沿岸という地政学上、その対策は必須と考えています。また、水害の場合は時間を追いつながら対策が可能であるため、水害を想定した避難訓練となっています。

これに先立ち、2月1日に青田教授と三宅社長が八尾市を訪問。高齢者介護系担当部署、危機管理系部署、さらに八尾市消防署の皆さんに大和川氾濫時の動き方や高齢者避難などについて意見交換しました。今後、八尾市関係各部署とともに災害時における高齢者施設の避難に関するロードマップを策定する予定です。

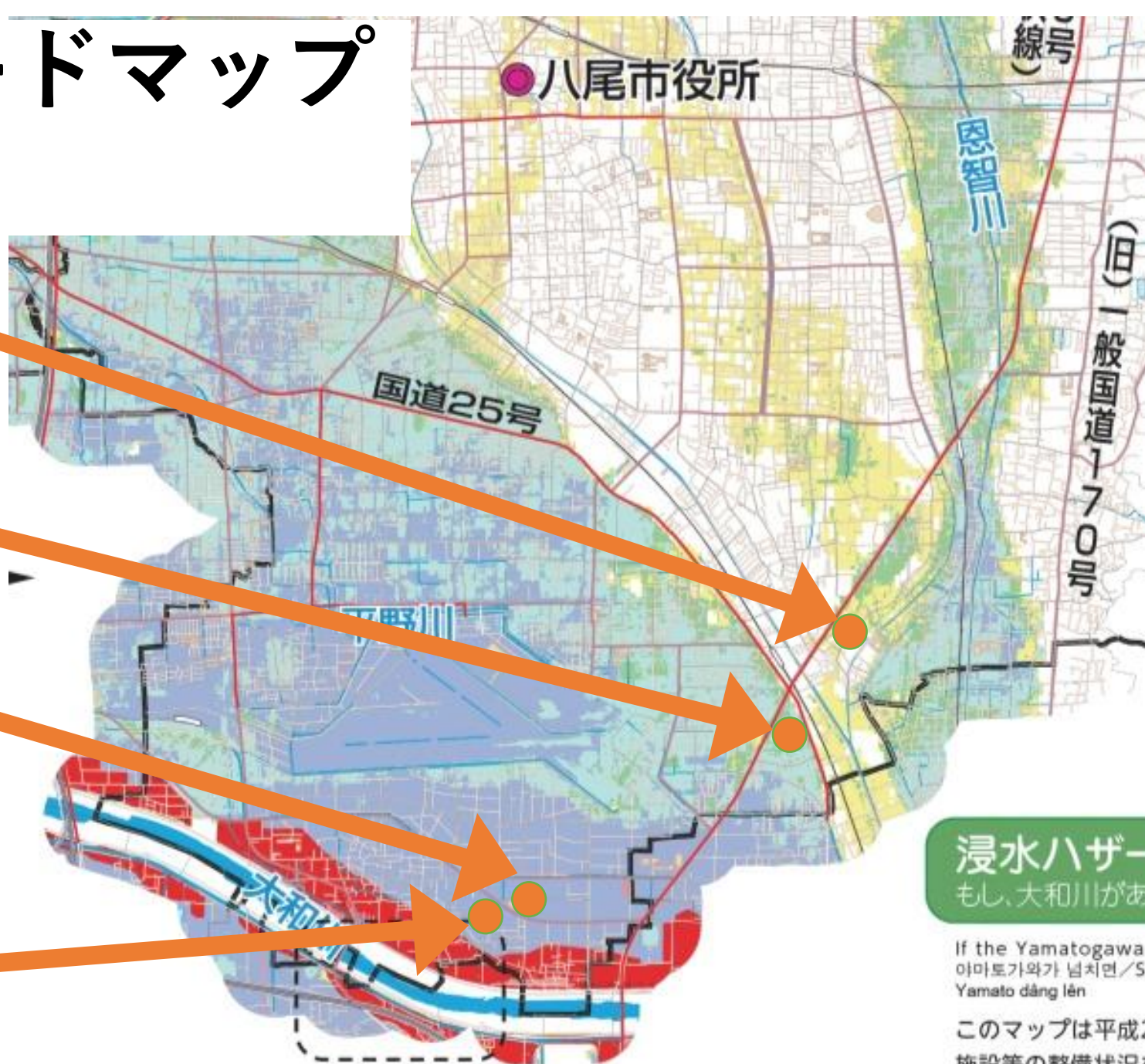
八尾市洪水ハザードマップから

あぶり都塚
浸水深（浸水深：0.5m未満）

あぶり志紀
浸水深（浸水深：1.0-2.0m）

あぶり八尾太田
浸水深（浸水深：2.0-5.0m）

あぶり小規模多機能・デイサービス
浸水深（浸水深：2.0-5.0m）



(株)あぶり社のBCP訓練に向けて

- 経営者は中小企業家同友会メンバー（大阪府八尾支部）。**経営感覚**を磨く。
- 同友会でBCP講演したのを機に、指導を引き受ける（令和2年7月）
- BCPをセールス・ポイントにしたいとの考え方。

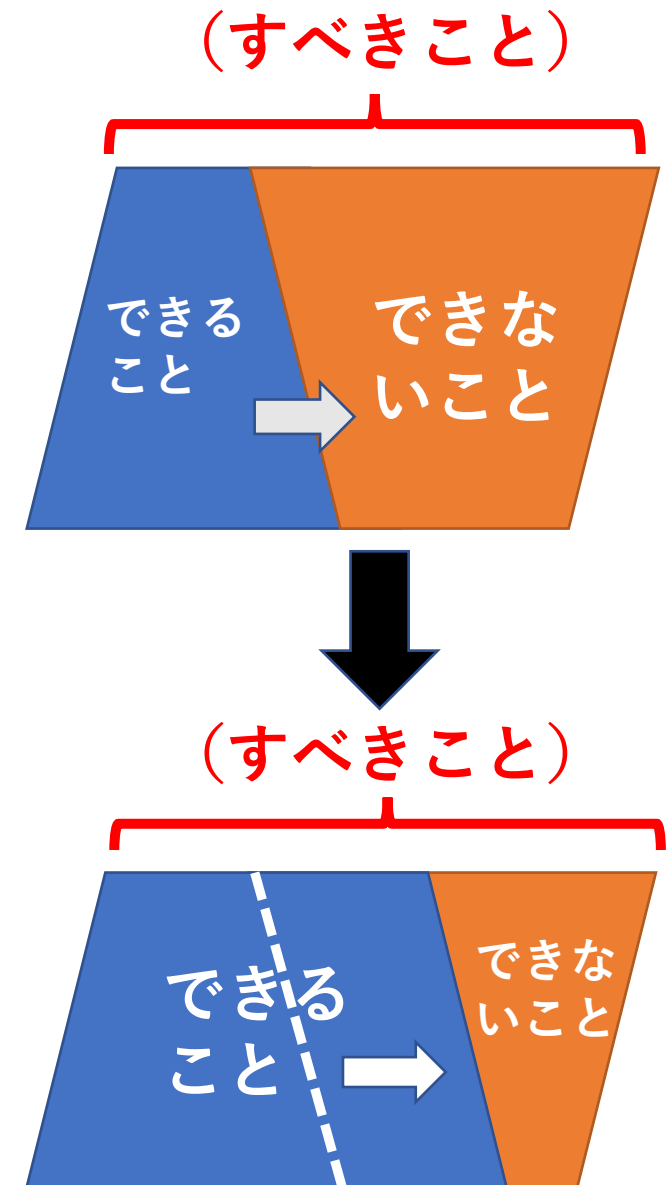
一方、

- 防災については素人（令和2年9月）
- 鍵谷ほか「ひな形で作る福祉防災計画～避難確保計画からBCP、福祉避難所（2020）」を紹介。
- 同書を踏まえ仮BCP作成（令和3年3月）



(株)あぷり社のBCP訓練に向けて

- 防災訓練（当初は地震想定、令和3年9月実施）を目指す。
- 青田は、毎月第2週の施設長ミーティング（社長・5施設長・人事責任者）に参加。
- 全施設同時の地震訓練はハードルが高い（いつ来るかわからない。入所者も動揺する）。各施設ごとに水害想定の内安確保を提案（事前に準備ができる）。
- 平成元年台風災害で被災した長野市内の介護事業者の事例紹介。緊迫感が共有され、意識が向上。
- 100点満点（すべきこと）を目指さない。「できること」を増やせば、「できないこと」が減り、「すべきこと」に近づくとの発想で、課題を見つける訓練とする。
- 無理をしない。本来業務に支障のない範囲で（本来業務と関連付けながら）、バージョンアップしていく訓練に。



(株)あぷり社のBCP訓練 (第1回)

第1回訓練：R3.10.12「あぷり志紀」

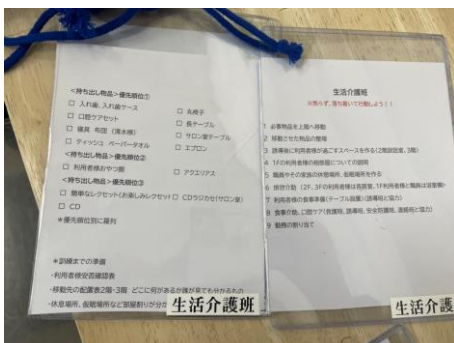
- 命題：課題を見つける。限界を知る。反省する。
- 幹部職員等からなる「対策本部」を設営
- 「連絡班」「救護班」「安全防護班」「避難誘導班」「生活介護班」「備蓄班」
- 台風が襲来し1階が水没するとの想定のもと、1階の入所者を2，3階に避難誘導後，食事，排泄を含む介護サービスを開始。
- 入所者も参加。9時から15時頃までのタイムスケジュールを設け実施
- 課題：対策本部への報連相、班同士の連携、連絡ツール、食事提供時間かかる



あぶり社のBCP訓練（第2回）

第2回訓練：R4.3.15「あぶり志紀」

- 確認内容を明確にすると動きやすい。行動表があると**自身で考えて行動**できない。
- 対策本部に各班長を含めると**報連相**が円滑に進む。ホワイトボードの活用を検討。
- 「こんな時はどうするか」「何を優先するか」「何を報連相するか」を事前に決定。
- キッチンスタッフが居なくとも出来る食事。**献立表（3日間）**をあらかじめ決める。
- どの場面で、どの班と協力するかを決めておくと動きやすい。



あぶり社のBCP訓練（第3回）

第3回訓練：R4.3.25「あぶり八尾太田」

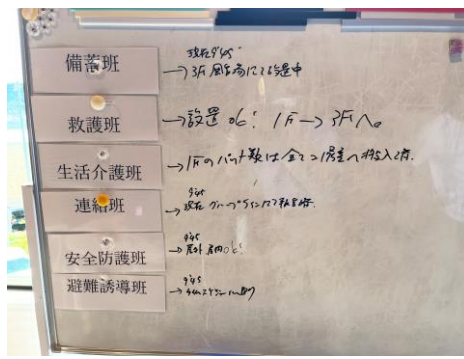
- **対策本部**：WiFiの不通、電気系統不良時の連絡方法を検討。
- **入居者ストレスケア**：重度者や相部屋に伴う不穏者を考慮。配置人数の見直し。
- **誘導方法**：電気停止時は非常階段で昇降できるよう布担架使用を検討する。
- **食事提供**：食事提供時、必ず居室ドアを開け中の様子や音が確認できるようにする。
- **連携対応**：3階と4階の情報共有や看護チームとの情報共有を図る。
- **その他**：2次災害を防ぐためコンセントの位置確認。コンセントを抜く作業。



あぶり社のBCP訓練（第4回）

1. 第4回訓練：R4.6.28「あぶり八尾都塚」＋「小規模多機能ホームあぶり」合同訓練

- 大和川に近い「小規模多機能ホーム」の入所者を（「八尾太田」に近いがスペースがない）、川から遠い「八尾都塚」に誘導。
- 全入居者を2階以上に誘導。
- 「連絡班」「救護班」「安全防護班」「避難誘導班」「生活介護班」「備蓄班」
- **施設の対策本部**とは別に**本社対策本部**も設営（オンラインで結ぶ）
- 4回目となり、準備が精緻、職員にも浸透
- 課題：「**小規模多機能からの入所者への扱い**」「**本社対策本部の役割**」



第5回訓練（本社機能も含め全施設で同時に）

1. 目的

各事業所、前回訓練の課題を整理し、今回の訓練で更なる課題を見つけ今後の対策を考える。

2. 日時

9月9日（金）、9:00-16:00

3. 場所

あぶり志紀（含：本社機能） あぶり八尾太田

あぶり八尾都塚と小規模合同

4. 参加人数（計：職員73名、入所者150名）

あぶり志紀（職員25名、入所者47名）

あぶり八尾太田（職員20名、入所者48名）

あぶり八尾都塚と小規模合同（職員20+8名、入所者48+7名）

第5回訓練（本社機能も含め全施設で同時に）

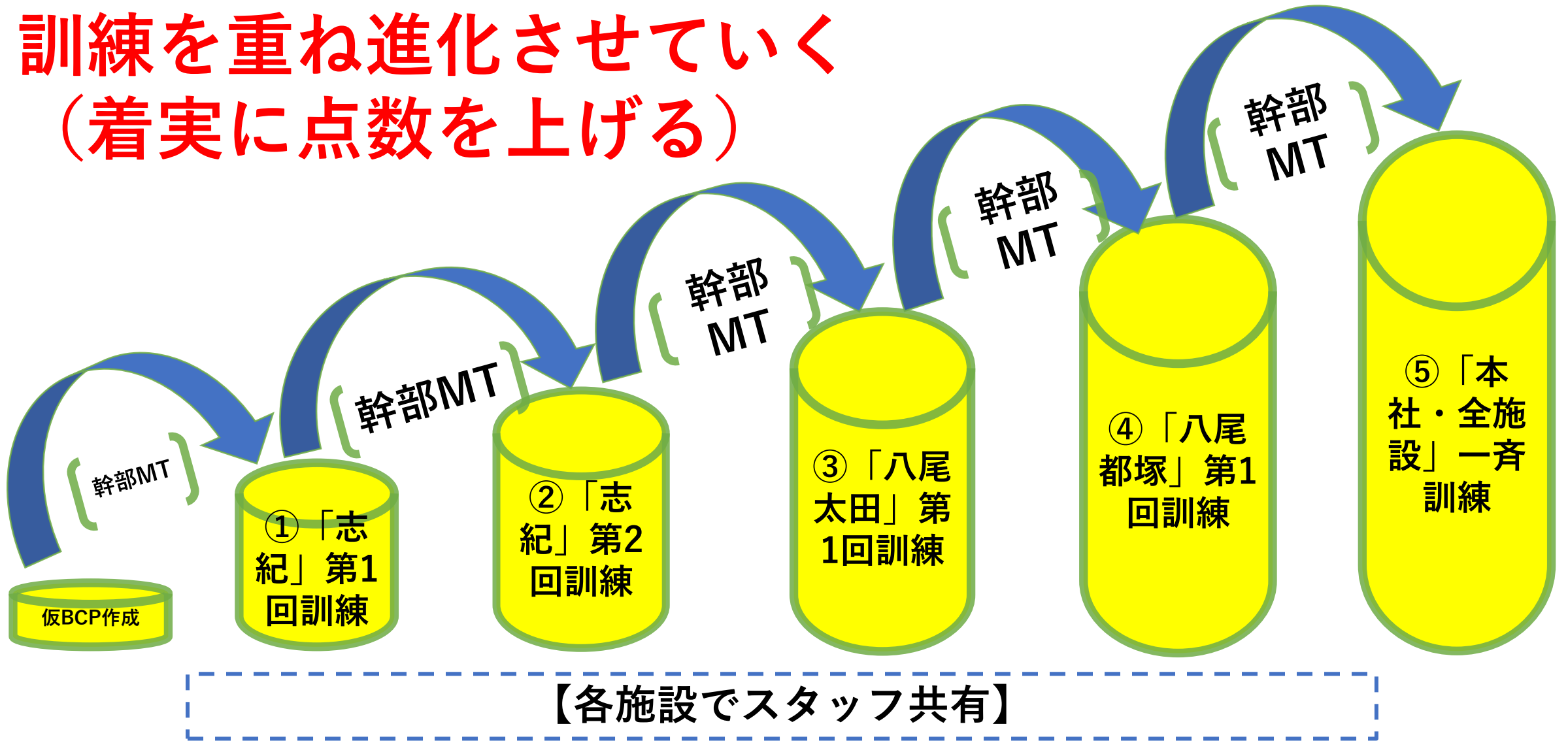
5. 考え方（被災3日間籠城の際に生活確保）

- ① 通常業務を訓練時に生かすことを意識し行動する。
- ② 参集判断～参集以後、時間経過に伴う被災状況を想定しながら必要な対応を考え行動する。
- ③ 訓練ごとに課題を「見つける」⇒「工夫する」⇒「振り返る」⇒「次に生かす」（＝PDCAサイクル）
- ④ 入居者の想定外の動きも現実起こることと捉え臨機応変に対応する

6. 訓練時のポイント

- ① 対策本部（本社本部と各施設本部の役割明確化）
- ② 情報共有の徹底（担当者間、担当者外間、施設内の上下階間、施設間）
- ③ 生活維持（食事、排泄、保健、ストレスケア、ゴミ、職員休息・シフト）
- ④ 各担当班の協力体制（次の展開の行動を一人ひとりが考える）
- ⑤ 作業効率を意識（準備、情報収集、誘導、ケア等作業効率を上げ、危機管理を考える）

訓練を重ね進化させていく (着実に点数を上げる)



(通所を除く) 全施設で屋内安全確保 (垂直避難訓練) 完了。
次の段階に移行。

あぶり社によるBCP過程の特色

【BCPに取り組む姿勢】

- 1 雛形を真似たことで終わりとししない。
- 2 訓練を重ね検証しながら、内容を改善し、本格作成を目指す。
- 3 PDCAサイクルを踏まえたBCM (Management) とする。



【BCP作成の手法】

1. 当初から満点を目指し、ハードルを上げない（減点法）。
2. 課題を見つけ、難易度を上げていく（加点法）。
3. 行政や地域との連携等、施設外との調整や、他施設への避難を伴う災害にも対処していく。



【本来業務との関連性】

1. 部活動、研修を通して、職員の資質向上に努める。
2. BCP訓練では施設長の下、班体制を敷き、職員を主体的に参画させる。
3. 通常業務を訓練に生かすことで、成果が通常業務にフィードバックされていく。

災害に強い介護事業所に向けて

1. 外部との連携を念頭に置いた訓練

- 市役所、警察、消防との連携、周辺コミュニティとの連携
- **他の介護事業所**との連携（周辺・遠隔）
- 災害発生時の**受援力**（専門ボランティア、被災地外からの介護事業所等による応援）

2. 地震災害に備える

- **不意打ち的**に発生する（スタッフが揃っていない、揺れに入所者が動揺する、施設・機材が損壊する恐れがある）。
- 所定のスタッフが揃うまで、**限られた人数で対応**（優先業務のさらなる選定、参集体制の強化、地域等外部の応援）。

災害に強い介護事業所に向けて

3. 通所事業者の防災対策

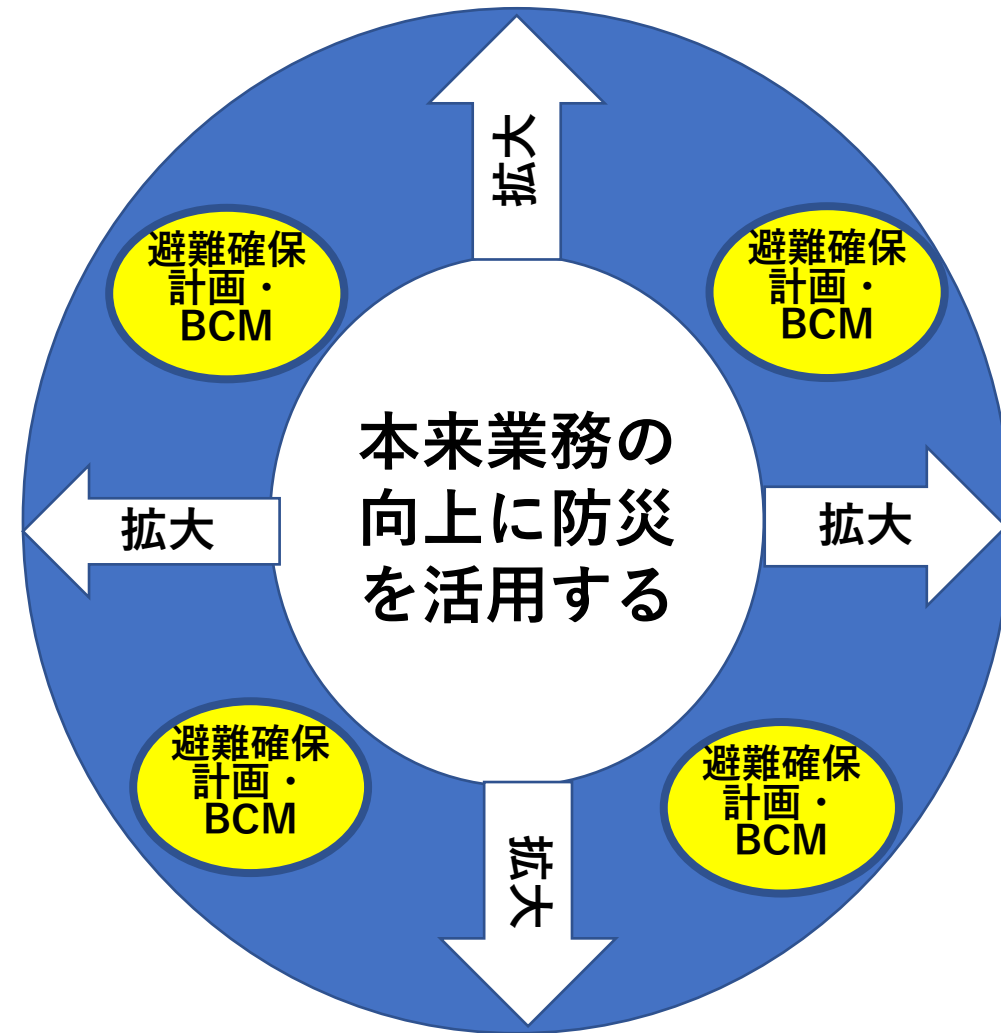
- 基本はできることを増やし、できないことを減らしていく。
- 水害等の場合は、休業の選択、通所者家族との連携。
- 宿泊機能が厳しい場合は、退避避難も。

4. 福祉避難所等への避難

- 一人ひとりに見合った食事、排泄、投薬サービス等を維持できるか（→行けば何とかなるでは済まされない。二次災害の防止！）。
- 福祉避難所環境の更なる整備（例：避難元職員も一緒に滞在）
- 行政だけでなく、介護事業関係者を加えたさらなる検討が必要。

考察（介護事業者にとって防災とは）

1. **介護の基本**として、どんな場所／時でも、食事、排泄、投薬サービスを欠かさない（**福祉** > **防災**）。
2. **普段のマネジメント**がしっかりしているほど、防災にも対応しやすい。**覚える** < **考える**
3. 災害時と平常時のマネジメントに**連続性**（= **命を守る**）を持たせる。**資質向上**、**人材育成**の観点から、防災に取り組む方が入りやすいのでは。
4. 福祉事業者にとって、**防災のハードル**は依然高い。防災の専門家等による支援が必要。
5. **継続性が重要**。**急がばまわれ**。「～すべき」ができず断念するよりは、「～できること」を増やし、「～できないこと」を減らしていく。



ご清聴ありがとうございました。

質問や不明な点等ございましたら、いつでもお気軽にご連絡ください。

ryosuke_aota@drg.u-hyogo.ac.jp